

| | | | | |
|-----------|------------|------|----|----|
| 講義名 | 企業文化論 | | | |
| 担当教員 | 瀧本 隆弘 | | | |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 水曜日 2時限 | 授業形態 | 講義 | |
| 履修開始年次 | 3年生 | 単位数 | 2 | 備考 |

主題と概要

企業文化とは、企業のメンバーによって信じこまれた価値観、考え方、行動パターンの総体である。講義では、この文化という組織におけるソフトの側面を学ぶ。文化は、形の無い、曖昧な存在である。しかし、企業が環境の変化の中で生き残るために、自らを変革し、環境に適應できる存在となるうえで不可欠のものである。つまり経営戦略策定の重要な要素である。従ってここでは、企業文化がいかに創造され、いかに浸透し、いかに変化していくのが、あるいはいかなる文化が企業には存在し、われわれはいかにその文化を管理し、さらには戦略にまで高めていくのかを考察する。

到達目標

企業文化とは「社員が共通に持っている理念や価値観で、社員の行動を方向づけるもの」であり、新しい時代の企業が目指す望ましい観念・制度・活動の体系の構築、特に良い企業(エクセレントカンパニー)のあり方について学ぶ講義である。この学びを通して、我々や社会にとって、良い企業とは いかなる企業かを考え、良い企業の企業文化を知り、消費者として、また生活者として、企業といかに関わっていくか考えることができるようになる。さらには、将来さまざまな立場で 企業とどのように付き合っていくかを 自ら考えられるようになることが目標である。また、経営学の視点から、経営戦略としての企業文化の在り方 について考えることで、企業が実体の無い文化をいかに利用し、企業競争における生き残りを目指しているかが理解できるようにする。

提出課題

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、提出課題も変更される可能性がある。後期開講科目は現時点では、対面型講義で行われる。

1. 講義の中で、小レポートの提出を求める可能性がある。ただし、課題提出の回数が増えた場合は、実施しない。
2. 簡単な課題の提出を求める。(数回・不定期) 講義内容に沿ったテーマで、講義の復習となるようなテーマが選択される。できるだけ、実習・フィールドワークに近い課題テーマを設定する予定である。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

課題の解説については、講義中にクラス全体に向けて行う。

履修者が多い場合は、講評は全体に向けて行う。オンデマンド型講義になった場合でも、流料ポータルを通じて実施する。

履修者が30名以下の場合は、個別に講評を行い、流料ポータルのメールアドレスへ返信する。

評価の基準

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、評価方法も変更される可能性がある。後期開講科目は現時点では、対面型講義で行われる。

対面型講義の場合は、
試験(60%)
後期中頃のレポート(20%)
数回の簡単な課題(20%)で評価を行う

ただし、課題提出の回数が多くなった場合(4回程度)は 小レポートは実施せず 課題の比率を40%にする
出欠調査は行わないので、出席点はない。
以上の総合評価で最終成績とする。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によって、講義形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない。

履修にあたっての注意・助言他

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、様々な変更が行われる可能性がある。流料ポータルを定期的にチェックする習慣を持つこと。後期開講科目は現時点では、対面型講義で行われる。

1. この講義は、講義中に提示されるパワーポイントのスライドを中心に、テキストは特に指定しない。講義内容のスライドはすべて流料ポータルからダウンロードできるようにしてある。スライドのアップやダウンロードのタイミングは講義中に提示する。こちらからプリント配布は一切行わない。講義開始までにダウンロードの方法を確認すること。
2. 出席調査は行わず、上記の講義中に提出する課題で出席点に代える。
3. 経営学関連の講義をある程度履修しているほうが望ましい。
4. 中間試験は行わず、小レポートを実施する。ただし、課題の回数を多くして(4回目程度)、中間レポートを中止する場合もある。

| | | | | |
|-----|-------------|--|--|--|
| 教科書 | .教科書は指定しない。 | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

プリント資料及び参考文献

『テキスト企業文化』張虹、泉文堂
『企業文化 コーポレートカルチャー』松村洋平、学文社
『グローバル化のなかの企業文化 国際比較調査から』石川晃弘/佐々木正浩 中央大学出版部、
『企業文化力と経営新時代』藤又寿良/橋原隆、同友館
『会社は「環境整備」で9割変わる! 強い企業文化と社風の創り方』矢島茂人、あさ出版
『ヤバい企業文化とSNS 感動と創造の経営』志村和次郎、産経新聞出版
『よい会社の条件』松宗次、中央経済社
『美しい企業文化』片方善治、毎日コミュニケーションズ

授業計画

1. 企業文化の創造 企業文化が求められる背景
2. 企業文化の概念 文化とは何か 経営理念
3. 企業文化の概念 組織文化と経営文化 社風と職場風土
4. 企業評価 経済性による評価 人間性による評価
5. 企業評価 社会性による評価 環境性による評価
6. 企業の社会的責任
7. 良い企業とは(エクセレントカンパニー)
8. コーポレート・ファンクション・ティーン (事例研究)
10. 企業の文化貢献(メセナ)
11. 企業の文化貢献(メセナ) (事例研究)
12. 企業の社会貢献(フィランソロピー) (事例研究)
13. 企業の社会貢献(フィランソロピー) (事例研究)
15. 環境経営(王コ、ビジネス) (事例研究)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

| | |
|---|---|
| <input type="radio"/> ア: PBL(課題解決型学習) | <input type="radio"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |
| <input type="radio"/> ウ: ディスカッション、ディベート | <input type="radio"/> エ: グループワーク |
| <input type="radio"/> オ: プレゼンテーション | <input type="radio"/> オ: 実習、フィールドワーク |
| <input type="radio"/> キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合) | |

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義で使用するスライドや資料は流料ポータルにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には講義スライドをポータルにアップする。

講義中にダウンロードの指示があったら、次の講義に合わせて随時予習をすること。また、ダウンロードは定期試験終了時まで可能にしてあるので、復習や試験勉強にも使用すること。講義資料や課題テーマについて準備や確認を行うことを前提として、予習は講義前2時間、復習は講義2時間は、時間をかけてほしい。

課題提出を求めているが、講義内容に沿った内容の課題テーマが設定されているので、課題を作成することが復習の代わりになる。また、できるだけ自分の目で観察したこと、体験したことを課題として提出できるよう、テーマを工夫するので、実習、フィールドワークのつもりで取り組んでほしい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この講義では、様々な企業における企業経営の仕組みや組織行動の現状分析を行い、仮説、検証を通して答えを導き出す問題解決型思考を養う。これにより、企業や組織のリーダーに求められる、企業経営の具体的な改善策や解決策の提案ができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義へのITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。

- ・学生のモチベーションを上げる。
- ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことができ、学生の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業でなく、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることも学生の学習に対するモチベーションを高める。
- ・学生も教員も楽しみながら、効率的な学習ができる。
- 学生も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えづらいことき、画像や動画などで視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、楽しみながら効率的な学習を進めることができる。
- ・学生が授業に積極的に参加しやすくなる。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考

新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、不明な点は担当教員に必ず問い合わせること。状況に合わせて対応することに留意する。

対面型講義の場合は、以下のオフィスアワーを利用してコンタクトをとるように。

オフィスアワー : 瀧本 月・水・木 12:10-12:50